

奉仕とは寄付のこと・アメリカは寄付社会

2510 地区 PDG 塚原房樹 (札幌東)

日本では、ロータリーは寄付団体ではないという認識がありますが、アメリカでは奉仕とは寄付をすることです。彼我の奉仕観の違いです。

アメリカでは、”自分達が社会を作る”という意識が強く、寄付をすることにより、社会に必要なシステムを自分達が作り出している、と感じることを大事にしています。ボランティアに対してもアメリカでは”社会を作るために必要な行為”とされていますが、日本では”慈善的で崇高な行為”という意識がまだ残っており、それらの意識の違いもこの寄付金額の格差に関与しています。

「どうせ政府に持っていかれるのなら、自分が支持する団体にあげよう」これがアメリカの寄付文化を支える根本的な考え方となっているのです。この考えは企業においても同じで、寄付や社会貢献に使った金額は会社の経費として法人税の控除につながります。そういった活動は節税と同時にイメージアップにもつながるので、企業にとってもメリットが多いのです。

アメリカでは寄付が日常的で、お金を持たない人間にも寄付という行為は身近にあります。ですが寄付大国アメリカの背景にあるのはなんといっても税制です。アメリカでは納税者全員が確定申告する義務があります。自分の収入に加えて支出も申告しますが、ここには様々な控除が含まれます。寄付は控除の大きな対象なのです。年収が上がれば上がるほど高い税率がかけられる仕組みなので、ハリウッドスター、スポーツ選手、企業経営者などの高額所得者は半端ではない金額を納めることになります。ですが、寄付による控除があると納税額もぐっと下がるわけです。

アメリカの大会社の社長さんたちがなぜあんなにも大きな給料を得るか。それは寄付をするためだと言います。アメリカでは個人の寄付金が年間約23兆円、日本の個人の寄付金は約2200億円。まずは取締役の所得がアメリカと日本で10倍近く違うというのがひとつ。10倍近く違うのでアメリカの社長さんは所得の95%を寄付しています。

社長さんに限らず、個人納税者の30%が寄付を行い、所得が1000万円以上の人々は87%が寄付をしています。日本の場合は個人納税者のうち寄付を行っているのは2.2%。社会の仕組みが全然違うのですね。アメリカはそうした寄付金でもって自分たちの地域を作る意識があるのです。で、その寄付金が機能しているということですね。いまやロータリー運動を推進させるエンジンはロータリー財団となりました。エンジンを駆動させるために寄付という燃料が未来永劫、欠かせなくなりました。